

主要事業の活動内容と成果、課題

(4) 日光プロジェクト

重 田 康 博

はじめに

「国際交流都市日光の再発見」（通称：日光プロジェクト）は、国際学部多文化公共圏センター（以下CMPS）と日光市国際交流協会によって開催されてきた。

日光プロジェクトは、宇都宮大学外国人留学生、海外経験のある日本人学生、日光市の地域の担い手とバスで日光市の各エリアを回り、地元の方々と交流しながら、国際交流都市日光の魅力を①観光開発、②国際交流、③地域づくり、の3つの視点から再発見し、学生のフィールドワークによる気づきによる提言を行うことを目的にしている。CPMSは、2008年に発足以来、これまで日光市国際交流協会による交流事業「食から世界を考える」の開催に協力してきたが、2015年から今日の日光プロジェクトを開催している。

本稿では、これまでの日光プロジェクトの活動を振り返り、その特徴と成果を検討する。

本プロジェクトの年度別テーマ（2015年～2020年）

以下に本プロジェクトの年度別テーマの概要を紹介する。

15年度からは、国際学部の外国人留学生、および留学経験日本人学生によって、栃木県大学・地域連携プロジェクト支援事業「外国人留学生と留学経験から見る日光の観光開発プラン『世界遺産+1』」を実施した。日光市は2015年に徳川家康没400年を迎え、400年式年祭など様々な行事が行われていた。その日光市とCMPSが協力して本プロジェクトは行われた。

16年度からは、宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターと日光市国際交流協会による主催事業として、「国際交流都市日光の再発見！—学生が考える日光のもう一つの地域発展プラン—」（通称日光プロジェクト）を実施し、日光・東照宮地区、中禅寺湖地区でフィールドワークを行い、シンポジウムを開催した。

さらに、17年度は「国際交流都市日光の再発見—『まちづくりと観光開発』を留学生と考える」をテーマに、日光・東照宮地区、栗山・湯西川地区でフィールドワークを行い、宇都宮大学でシンポジウムを開催した。

18年度は「国際交流都市日光の再発見—『足尾の歴史を活かした観光地づくり』を国際的視野から考える」を足尾地区で実施し、足尾銅山などでフィールドワークを行い、宇都宮大学でシンポジウムを開催した。

19年度は「国際交流都市日光の再発見—『観光モデルを留学生と考える』プロジェクト」を奥日光、中禅寺湖周辺、宇都宮大学で実施した。

20年度は「国際交流都市日光の再発見—日本のインバウンドについて留学生と考える」は、世界や日本でのコロナ感染症の拡大の影響で、宇都宮大学の多くの留学生は来日できないという前代未聞の事態となった。コロナ感染防止のため、従来のような日光市内をバスで回るフィールドワークは中止し、20年12月7日Zoomオンライン形式によるシンポジウムのみを開催した。今回のシンポジウムは、世界や日本のコロナ感染拡大が観光産業に影響を与える中、日光市のインバウンドの取り組みについて、留学生や日光国際交流協会会員と共に意見

交換を行い、国際交流都市日光の地域資源・観光資源のあり方について検討した。

本プロジェクトの特徴

日光プロジェクトの特徴は、以下の通りである。

第1に、大学と自治体による共同事業であることである。

日光プロジェクトは、大学であるCMPSと自治体である日光市（国際交流協会）との共同事業として開催されてきた。本プロジェクトでは、大学と自治体が企画、運営、募集、会場、移動手段、予算を出し合い、人が協力して事業を行っている。

第2に、観光開発、国際交流、地域づくりのテーマを取り上げていることである。

これまでのテーマの主なキーワードを挙げると、世界遺産、地域発展プラン、まちづくり、歴史を活かす、観光モデル、インバウンドなどである。共通しているのは、観光開発、国際交流、地域づくりをテーマにしていることである。

第3に、留学生などによるフィールドワークが行われてきたことである。

本プロジェクトは、留学生、日本人留学生、日光市国際交流協会会員などの参加者によるテーマに基づくフィールドワークを行い、日光市の観光開発、地域づくりの課題を一緒に考える。約30名の参加者は、5つのグループに分かれて、観光客、観光施設・商店街・関連施設のスタッフやキーパーソンにインタビューを行い、地域資源・観光資源の更なる活用を模索する。

第4に、シンポジウムの開催である。

本プロジェクトでは、毎年観光開発に関するテーマ別のシンポジウムを行い、日光のまちづくりと観光開発プラン、日光市の持続可能なまちづくりへの留学生主体の提言を行い、世界や

地域にSNSを使って発信し、問題解決に貢献している。

本プロジェクトの成果

次に、日光プロジェクトの成果は、以下の3点が挙げられる。

①共同事業として5年間開催

日光プロジェクトは、大学であるCMPSと自治体である日光市（国際交流協会）との共同事業として5年間継続して開催されてきた。本事業は、当初から試行錯誤の繰り返しであったが、今では大学と自治体によるモデル事業になっている。

第2は、外国人留学生と日光市の地元の方々との交流を行ってきたことである。

本プロジェクトは、宇都宮大学の外国人留学生、海外経験のある日本人学生、国際交流協会会員、行政職員、大学教員らとバスで日光市の各エリアを回り、地元の様々なステークホルダーの方々と交流しながら、国際交流都市日光の魅力を再発見するプロジェクトである。ここでは、様々なステークホルダーの方々が参加し協力して行われてきた。

第3は、留学生・日本人学生による多様な提言や提案である。

日光市が有する地域資源、観光資源の発展について、外国人留学生・海外経験のある学生などの視点から、フィールドワークの実施、シンポジウムの開催、インターネットの活用などを通じて、多様な提言や提案を行い、世界や地域に向けて発信してきた。

おわりに

日光市には、年間1200万人以上の観光客が訪れ、外国人宿泊客数も9万人を超えている。しかし、2020年はコロナ感染症拡大の影響で、日光市への観光客は激減した。

今後日光プロジェクトは、どのような企画を

模索していけばいいのか。このコロナ感染の影響で、20年度のプロジェクトはZoomによるオンライン開催となったが、プロジェクトを中断せず、継続できたことはせめてもの救いであった。来年以降、コロナ感染が収まり、宇都宮大学の留学生達が戻ってきて、再び日光プロジェクトのフィールドワークが行われることを願いたい。

またCMPSは、2008年4月に設立され、11年が経過した。CMPSは、ドイツの社会学者ユル

ゲン・ハーバマスの「公共圏」の概念を土台にして、海外や栃木県内外の大学、自治体や関係団体とネットワークを形成し、情報を交換し、グローバル化に関わる共同研究や共同事業を通じて課題の解決や合意形成を目指すことを目的にしている。今後、本プロジェクトがCMPSの目指す課題の解決や合意形成の場となり、大学と自治体が目指す公共圏の形成につながる試みにしていくことが求められる。



2019年度日光プロジェクト参加者記念撮影（奥日光・中禅寺湖にて 2019年11月10日）



2018年度日光プロジェクト記念撮影（日光市・足尾銅山 2018年11月17日）